

標津町と北方領土の位置



標津町の概況

標津町……「シベツ」の語源は、アイヌ語で鮭のいるところ、大きい川の意味

北海道の最東端、根室支庁管内の中心部に位置する標津町は、左に知床国立公園、右にノサップ岬を先端とする根室半島、正面のオホーツク海（根室海峡）に国後島を臨む風光明媚な地です。

人口は、約6,800人、面積624.38km²、漁業と酪農の町です。

漁業は、古くから鮭漁によって栄え、半世紀以上に亘る鮭鱒ふ化放流事業が功を奏し、現在は、日本一のサケの生産地となっています。平成7年度の水揚げは、1万9千トン、そのほかホタテ貝、こまいなど含めた漁獲金額は、47億円です。

酪農業は、自然条件と広大な土地資源を生かした比較的大規模な経営が行われ、現在の乳牛飼養頭数は、1万8千頭、平成7年度の生産額は、68億円です。

最近の国内外の情勢を受け、厳しい経営環境にはあるものの、漁業・酪農業とも比較的安定した経営を続けており、豊かな海と大地に育まれた「生産の町」として、発展しています。



標津の見どころ

標津サーモンパーク

平成3年にオープンしたサーモン科学館は、日本一のサケのまちにふさわしく、サケの水族館と生態学習のできる施設。



古い歴史と自然学習



ポー川史跡自然公園は、7千年前の竪穴居住跡（国指定）それを取り巻くように標津湿原（国指定）が広がっている。開拓当時の資料、建物の復元など、歴史と自然を思う存分体験できる。

標津のまちづくり紹介

さけにこだわる。

やはり日本一のサケを題材にした「さけ」にこだわったまちづくり…

街灯、歩道、欄干にサケをあしらって。



ふさわしい景観整備推進



木造の農家看板